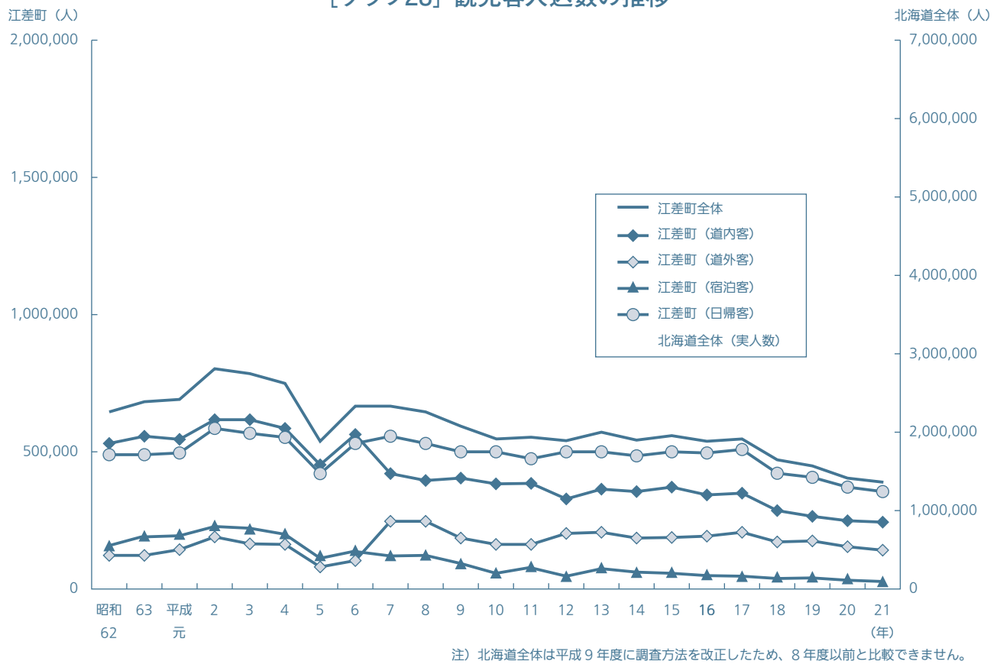
6 観光

現状

- 当町には江差追分をはじめ、数多くの国及び道指定の有形無形文化財、青少年研修施設開陽丸等の観光資源があり、「江差追分と観光の町」として定着しています。
- 夏には370有余年前から行われている、北海道最古の祭りといわれる「姥神大神宮渡御祭」が開催され、武者人形、能楽人形、文楽人形、歌舞伎人形などを配した豪華な13台の山車が祇園祭囃子の調べにのって町内を練り歩きます。
- 江差追分については、平成２年度の世界追分祭開催を皮切りに外国や国内公演を通じてその普及に努め、「追分のまち」を広く発信しています。普及活動の集大成ともいえる江差追分全国大会をはじめ、江差追分熟年全国大会、江差追分少年全国大会も開催されています。
- 歴史的資源については、青少年研修施設「開陽丸」の復元をはじめ、道の前長期総合計画の戦略プロジェクトのひとつである「歴史を生かしたまちづくり事業」を通じて、骨格となる歴史的街並みを再形成しました。
- 歴まち街道拠点整備の一貫として、道内に唯一現存する道文化財「旧檜山爾志郡役所」を復元したほか、平成22年４月には「江差山車会館」がオープンし、観光客増加が期待されています。
- 広域的には、平成22年に、はこだて観光圏として道南地域18市町による広域観光圏での取り組みも開始され、地域連携の下、観光客誘致対策を積極的に進めていくこととなっています。
- 開陽丸の復元船については、甲板部分等が老朽化し、危険な状態でありましたが、平成22年度に耐久性の高い素材を活用し改修工事を実施しました。
- 観光客の入込数は平成２年の80万６千人をピークに、平成20年度は40万４千人まで落ち込んでおり、時期も４～９月に集中し、多くが日帰り客であるという従来同様の「春夏通過型」から脱却していません。各観光施設の入館者等についても減少傾向にあり、当町の観光産業は非常に厳しい状況にあります。
- 宿泊施設については、平成21年にかもめ島入口に温泉宿泊施設がオープンしましたが、旅館タイプの宿泊施設は、経営不振から２館閉鎖になっています。年間の宿泊客数は、平成21年度は25,875人で、町内の宿泊収容可能人数は350人/日となっています。

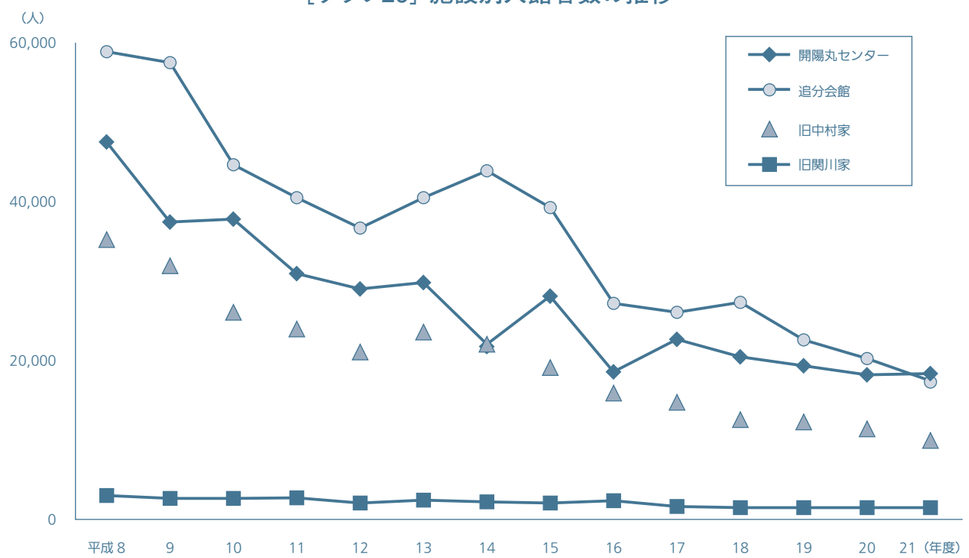
［グラフ28］観光客入込数の推移



注）北海道全体は平成９年度に調査方法を改正したため、８年度以前と比較できません。

（北海道、江差町調）

［グラフ29］施設別入館者数の推移



（江差町調）

課題

■ 宿泊施設はいずれも30～50人が定員で、修学旅行などの大型団体には対応できない状況であり、滞在型を促進していくための対応策が必要です。
■ 近年の観光動向は、多人数から少人数へ、団体旅行から個人旅行へと変わりつつあり、今まで以上に個性的で、特色ある観光地づくりが必要になっています。そのため、既存の観光施設や宿泊施設についても、新たな観光スタイルに対応していくことが求められています。
■ 江差追分全国大会は、平成24年には第50回を迎え、新たな歴史を刻みます。この節目の大会を契機に、先人の唄に込められた風土や暮らしの真髄を更に探求しながら、江差に生まれたこの追分文化を住民とともに大切に普及伝承していくことが必要です。
■ 施設だけでなく、荒波立つ海、風景が美しい坂道、日本海とかもめ島と夕日のコントラストなどは町外者にとって非日常的であり、観光の価値を有しています。隠れた観光資源の掘り出しと共に、町内に点在する可能資源をつなぎ、楽しんでもらえるソフト事業を、官・民連携で推進していくことが必要です。
■ 観光ボランティアガイドの養成、お土産品の開発、江差産の食材を使った観光客に喜ばれる地場料理の提供、観光客に対する接遇の徹底、ホスピタリティ精神の発揮など、観光地としての基本的な受入体制の整備も継続して進めることが必要です。
■ 函館、大沼を中心とした道南圏の観光客を江差に呼び込むには、松前町や上ノ国町と連携した取り組みが必要で、地域の特色を出した体験型観光、歴史スポットの拡大などが必要です。

課題解決に向けた基本方針

- **通過型、日帰り観光から宿泊を伴う観光、体験型観光、少人数型観光への転換を図ります。**
- **姥神大神宮渡御祭や江差追分全国大会における宿泊不足への対策を図ります。**
- **食が楽しめる観光を推進します。**
- **江差町固有の観光資源の磨き上げによる観光メニューや体験型の観光メニューをつくります。（歴史・文化的遺産、江差追分等の活用など）**
- **もてなしの心が伝わる環境づくり、サービスの向上を図ります。**
- **かもめ島をはじめ点在する観光ポイントをつなぎ魅力向上を図ります。**
- **増加する外国人観光客に対応した環境整備を進めます。**
- **周辺自治体と連携し、広域的な観光振興を図ります。**

具体的な施策

新たな観光要素の充実	・町外者が魅力や関心を抱く観光要素の発掘 ・ご当地グルメ、郷土食のメニュー化 ・体験型観光の推進 ・観光客への土産品の開発と販売推進 ・㈶民間都市開発推進機構（ＭＩＮＴＯ）の資金活用による開陽丸ファンドの活用（開陽丸管理棟での特産品等販売場所整備、上町、下町の交流の促進など）による集客力の向上
観光イベントの充実	・イベント時の宿泊所や飲食店、スケジュール等の相談体制の充実 ・更なる活性化に向けたイベントの充実、見直し
観光施設の整備	・観光案内看板等の整備 ・外国人観光客に対応した環境整備 ・道の駅の活用、充実 ・開陽丸、かもめ島を一体とした港エリア環境整備
滞在時間を延ばす観光ルートの開発	・街中フットパスコースの開発 ・かもめ島フットパスコース整備による周遊マップの作成 ・風景を楽しんでもらえる場の充実（休憩場の設置など）
もてなしの心の向上	・観光に関する情報の充実（ホームページ、広報媒体の充実） ・観光ボランティアガイドの養成 ・住民それぞれの立場でのもてなしの意識の向上
広域的な連携による観光の振興	・新幹線新函館駅開業に向けた観光客誘致対策の推進 ・江差、上ノ国、松前の３町と渡島半島南西広域観光ルートの開発 ・共同キャンペーン等の広域連携による観光客誘導 ・インターネットを使った新しいＰＲ ・はこだて観光圏整備推進協議会との連携による観光客誘致対策の推進 ・どうなん・追分シーニックバイウェイの認定による広域連携の促進（シーニックバイウェイ北海道）